

# ROHM MUSIC FESTIVAL

ローム ミュージック フェスティバル

## 2021

Rohm Music  
Foundation ♪  
ローム ミュージック ファンデーション

ROHM  
SEMICONDUCTOR



2021.4/24(土)・25(日)  
ロームシアター京都

主催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

共催：ローム株式会社

後援：京都府、京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

ごあいさつ

この度はローム ミュージック フェスティバル 2021にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションとローム株式会社は、音楽を通して豊かな文化を作ることを目的に様々な音楽文化支援活動を継続的に実施しています。特に奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、音楽を学ぶ若い人たちを支援する事業に力を入れてきました。

そしてこのような事業を通じて関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の皆様は国内外で活躍されています。

このフェスティバルでは「ローム ミュージック フレンズ」という繋がりが生み出す、豪華共演をお届けします。

素晴らしい音楽家たちによる音楽との出会いをぜひお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション  
ローム株式会社

## Schedule

4/24 [土]	12:00開演 (11:15開場)	サウスホール	珠玉の室内楽コンサート  ダンス・ミュージックへの誘い  歌手×映像が織り成す「椿姫」スペシャル・ハイライト!
	16:30開演 (15:45開場)	サウスホール	
	リレー コンサート B	リレー コンサート B	
4/25 [日]	18:30開演 (17:30開場)	メインホール	歌手と器楽奏者による「モーツアルト・ガラ・コンサート」Vol.2  ベートーヴェン・コンチェルトのタペ
	オーケストラ コンサート I	オーケストラ コンサート I	
4/25 [日]	14:30開演 (13:45開場)	サウスホール	歌手と器楽奏者による「モーツアルト・ガラ・コンサート」Vol.2  ベートーヴェン・コンチェルトのタペ
	リレー コンサート C	リレー コンサート C	

企画:公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 制作プロデュース:善積 俊夫  
メインホール/サウスホール公演 構成:新井 鶴子 制作:株式会社 1002 運営:エラート音楽事務所  
オンライン ライブ/アーカイブ配信:カーテンコール  
ローム・スクエア制作:株式会社 Ryu

## リレー コンサート A

### 珠玉の室内楽コンサート

サウスホール 12:00開演(13:30頃終演予定)

F.J.ハイドン  
F.J.Haydn

ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.XV:25 「ジプシー・トリオ」  
Piano Trio No.39 in G Major Hob.XV:25 "Gypsy Trio"

I Andante  
II Poco Adagio  
III Rondo all'ongarese : Presto

L.v.ベートーヴェン  
L.v.Bethoven

モーツアルト「フィガロの結婚」の「伯爵さまが踊るなら」の  
主題による12の変奏曲 へ長調 WoO 40  
12 Variations on "Se vuol ballare, signor contino" from Mozart's  
『Le nozze di Figaro』 in F Major WoO 40

G.ロッシーニ  
G.Rossini

チェロとコントラバスのための二重奏曲 ニ長調  
Duo for Violoncello and Contrabass in D Major

I Allegro  
II Andante mosso  
III Allegro

～休憩～

F.シューベルト  
F.Schubert

ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.114, D.667 「ます」  
Piano Quintet in A Major Op.114, D.667 "Die Forelle"

I Allegro vivace  
II Andante  
III Scherzo : Presto  
IV Andantino  
V Allegro giusto

田村 韶(ピアノ)  
黒川 侑(ヴァイオリン)  
佐藤 晴真(チェロ)

田村 韶(ピアノ)  
黒川 侑(ヴァイオリン)

佐藤 晴真(チェロ)  
渡邊 玲雄(コントラバス)

田村 韶(ピアノ)  
黒川 侑(ヴァイオリン)  
瀧本 麻衣子(ヴィオラ)  
佐藤 晴真(チェロ)  
渡邊 玲雄(コントラバス)

F.J.ハイドン(1732~1809)  
ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.XV:25  
「ジプシー・トリオ」

ピアノを含む3種楽器によって演奏されるピアノ三重奏曲の代表格がピアノ、ヴァイオリン、チェロという編成だ。その初期の大家ヨーゼフ・ハイドンは40数曲に及ぶピアノ三重奏曲を書いた。本作はすでに名声を確立した彼が2度目のイギリス演奏旅行を行った1794~95年頃の作品。第3楽章がロマ音楽風であることが愛称の由来。

第1楽章: アンダンテ、ト長調、2/4拍子。変奏曲。ピアノとヴァイオリンの示す穏やかな主題は2部形式。第1変奏はト短調、第2変奏はト長調。第3変奏はホ短調でヴァイオリンが活躍し、第4変奏ではピアノが活発に動きまる。

第2楽章: ポーコ・アダージョ、ホ長調、3/4拍子。3部形式。ピアノが優美に歌う。

第3楽章: プレスト、ト長調、2/4拍子。ロマ音楽のリズムと旋律をとり入れたロンド。

L.v.ベートーヴェン(1770~1827)  
モーツアルト「フィガロの結婚」の「伯爵さまが踊るなら」の  
主題による12の変奏曲 へ長調 WoO 40

W.A.モーツアルトが1786年に初演したオペラ「フィガロの結婚」は、好色な伯爵を召使フィガロが懲らしめる物語。その第1幕で自分の婚約者への伯爵の野望を知ったフィガロが「よし、負けないぞ」との決意を込めて歌うカヴァティーナの旋律を主題として、ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンはこの二重奏曲を書いた。シンプルな主題に12の変奏が続く。1792~93年作曲。

G.ロッシーニ(1792~1868)  
チェロとコントラバスのための二重奏曲 ニ長調

ジョアッキーノ・ロッシーニは室内楽曲も書いている。本作は彼が1824年に有力後援者デイヴィット・サロモンズの縁故者であるコントラバス奏者フィリップ・ジョセフのために作曲したもので、ジョセフの師匠のドラゴネットがチェロを受け持ち、ジョセフがコントラバスを担当してサロモンズ邸で初演された。その後そのまま埋もれていたところ、1968年にサロモンズの遺品の中から楽譜が発見され、翌1969年に初出版された。

第1楽章: アレグロ、ニ長調、4/4拍子。2部形式。第2部では第1部が調を変えて再現される。

第2楽章: アンダンテ・モソ、変ロ長調、3/4拍子。チェロ、コントラバスが順に主題を示す第1部、ト短調の第2部、チェロが短く主題を再現する第3部からなる。

第3楽章: アレグロ、ニ長調、3/4拍子。コントラバスの刻むリズムにのってチェロが主題を歌う第1部、コントラバスがイ長調で主題を模倣する第2部、主題の再現、コーダから構成される。

F.シューベルト(1797~1828)

ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.114, D.667 「ます」

ピアノを含む5つの楽器がそれぞれ異なるパートを演奏するピアノ五重奏曲の一般的な編成は、弦楽四重奏(第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ) + ピアノだが、フランツ・ベーター・シューベルトのこの作品は、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによって演奏される。1819年夏、友人の歌手フォーグルとともにオーストリア北部の町シュタイアーを訪れたシューベルトは、鉱山主でチェロ愛好家のパウムガルトナーの依頼により、パウムガルトナーの音楽仲間の楽器編成に合わせてこの曲を書いた。第4楽章の変奏曲主題に2年前の自作歌曲「ます」の主題が用いられたことからこの愛称で親しまれている。

第1楽章: アレグロ・ヴィヴァーチェ、イ長調、4/4拍子。勢いあるピアノの上昇主和音句に導かれてヴァイオリンが4つの2分音符から歌いだす第1主題と、ホ長調の弾むような第2主題によっている。

第2楽章: アンダンテ、ヘ長調、3/4拍子。3つの主題を持つ緩徐楽章。

第3楽章: スケルツォ、プレスト、イ長調、3/4拍子。表情ゆたかなスケルツォ。

第4楽章: アンダンティーノ、ニ長調、2/4拍子。歌曲「ます」の主題に5つの変奏が続き、主題を各楽器で分け合うコーダで結ばれる。

第5楽章: アレグロ・ジュスト、イ長調、2/4拍子。ハンガリー風の活気あるフィナーレ。

[萩谷 由喜子]

## リレー コンサート B ダンス・ミュージックへの誘い

サウスホール 16:30開演(18:00頃終演予定)

J.S.バッハ イギリス組曲 第3番 ト短調 BWV808より V.ガヴォット、VI.ジーグ  
J.S.Bach English Suite No.3 in G Minor BWV808

F.ショパン ワルツ 第6番 変ニ長調 Op.64-1「小犬のワルツ」  
F.Chopin Waltz No.6 in D-flat Major Op.64-1 "Valse du petit chien"

D.ポッパー ワルツ 第9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ(告別)」  
D.Popper Waltz No.9 in A-flat Major Op.69-1 "L'adieu"

V.モンティ ポロネーズ 第6番 変イ長調 Op. 53「英雄」  
V.Monti Polonaise No.6 in A-Flat Major Op.53 "Heroic"

A.メンケン ハンガリー狂詩曲 Op.68  
A.Menken Hungarian Rhapsody Op.68

清塚 信也 Baby, God Bless You  
Shinya Kiyozuka Baby, God Bless You

G.ガーシュwin チャルダッシュ  
G.Gershwin Csárdás

清塚 信也 つながる心  
Shinya Kiyozuka Tsunagaru Kokoro

～休憩～

A.メンケン 「美女と野獣」より 美女と野獣  
A.Menken Beauty and the Beast from Beauty and the Beast

G.ガーシュwin ラプソディ・イン・ブルー  
G.Gershwin Rhapsody in Blue

P.I.チャイコフスキイ バレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71より 花のワルツ  
P.I.Tchaikovsky Ballet "The Nutcracker" Op.71 "Valse des fleurs"

M.ラヴェル 死き王女のためのパヴァーヌ  
M.Ravel Pavane pour une infante défunte

G.M.ロドリゲス ラ・クンパルシータ  
G.M.Rodriguez La Cumparsita

A.ピアソラ リベルタンゴ  
A.Piazzolla Libertango

R.ロジャース ミュージカル「王様と私」より シャル・ウイ・ダンス?  
R.Rogers Shall We Dance? from The King and I

「音楽が生まれた瞬間がいつだったか」

これは全音楽家が1度は想いを馳せる議題のひとつではないだろうか。

クラシックの歴史は、ヨーロッパが楽譜を残し始めた1500年頃からである。

人類の歴史から比べれば、高々500年くらいの浅い歴史と言える。

音楽の起源は、原始時代に狩に繰り出す時の掛け声が歌になったとか、色んな見解があるだろう。

そんな中に、「ダンス」というのも相当に古い歴史として入ってくるのではないだろうか。

音を体で感じ、リズムをハートで刻む。

何の確証もないが、人類が誕生してからずっとやってたんじゃないかなって私は感じる。

そんな「ダンス・ミュージック」が、どんな歴史を辿り、各国でどんな変化を遂げたのか、ぜひ今日は皆で体感して行きたいと思います。

Shall We Dance?  
清塚 信也

清塚 信也(ピアノ)

古川 展生(チェロ)  
清塚 信也(ピアノ)

清塚 信也(ピアノ)  
古川 展生(チェロ)

松田 理奈(ヴァイオリン)  
清塚 信也(ピアノ)

清塚 信也(ピアノ)  
松田 理奈(ヴァイオリン)

清塚 信也(ピアノ)

清塚 信也(ピアノ)  
松田 理奈(ヴァイオリン)  
古川 展生(チェロ)

清塚 信也(ピアノ)  
松田 理奈(ヴァイオリン)

清塚 信也(ピアノ)  
リベルタンゴ

清塚 信也(1982~)  
Baby, God Bless You

TBS系金曜ドラマ『コウノドリ』のメインテーマとして清塚信也が作曲した、心の洗われるような愛とやさしさに満ちた1曲。清塚のアルバム『あなたのためのサウンドトラック』に収載されている。

V.モンティ(1868~1922)  
チャルダッシュ

ナポリに生まれのヴィットリオ・モンティの代表作。マンドリン独奏曲だったが現在ではさまざまな楽器で演奏されている。チャルダッシュとは「酒場風」を意味するハンガリーの民族舞曲。

清塚 信也(1982~)  
つながる心

波瑠主演のNHK土曜ドラマ『路(ルウ)台湾エクスプレス』は吉田修一の原作小説をもとに、台湾新幹線プロジェクトの陰で育まれた日本人と台湾人の絆を描く。聴く者の胸にじんと響くこの曲は清塚信也作曲のメインテーマである。

J.S.バッハ(1685~1750)  
イギリス組曲 第3番 ト短調 BWV808より  
V.ガヴォット、VI.ジーグ

J.S.バッハがマイマル時代の1715年頃からケーテン時代の1720年代初めにかけて書いた鍵盤楽器用の6曲の組曲は、バッハの末子J.C.バッハによる筆写譜の第1番の扉に「イギリス人のために作曲された」と記されていることから『イギリス組曲』と呼ばれる。第3番ト短調BWV808は全6曲構成。その中から、第5曲のガヴォットと第6曲のジーグが演奏される。いずれも舞曲でガヴォットは2/2拍子。中間部に第2のガヴォットが挿入されている。12/8拍子のジーグは3声のフーガのスタイルで書かれている。

F.ショパン(1810~49)

ワルツ 第6番 変ニ長調 Op.64-1「小犬のワルツ」

パリ定住後のショパンが半同棲生活を送った作家ジョルジュ・サンドは愛犬家だった。ショパンも彼女の犬たちを可愛がり、ある日、その一頭マルキが自分の尻尾にじゃれついてくるくると回るようすからヒントを得てこのワルツを書いたといわれる。変イ音を中心に上下に旋回する音型が小犬の動きを描写しているとされる。

ワルツ 第9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ(告別)」

パリ生活が軌道に乗り出した1835年夏、ボヘミアの温泉地で両親と久々の再会を果たしたショパンは、パリへの帰途、ドレスデン在住の知人ヴォジンスカ伯爵家を訪問し、同家の娘マリアと恋に落ちた。このワルツは、ドレスデンを去るときショパンがマリアに贈ったもの。彼とマリアは婚約まで交わすが結婚に至らずに終わる。ショパンはこのワルツをマリアとの恋の形見として封印し、生前には出版しなかったため遺作となった。

ポロネーズ 第6番 変イ長調 Op.53「英雄」

1842年作曲の本作力強い序奏から開始され、次いで雄々しい主題が奏される。中間部では左手の下行音型上で右手が勇壮なテーマを歌うが、ここが騎士団の進軍を思わせるため「英雄」の愛称が定着したという。

D.ポッパー(1843~1913)

ハンガリー狂詩曲 Op.68

プラハ生まれのダーヴィット・ポッパーはウィーン宮廷管弦楽団の首席チェロ奏者として活躍した。1894年に出版された『ハンガリー狂詩曲』は彼の代表作。曲は7つのハンガリー風旋律を接続曲風につなぎあわせたもので、まずピアノのドラマティックな序奏に導かれ、チェロが幅広い音域を駆け巡る華やかな楽句から登場する。その後次々と登場する旋律は緩急の変化に富み、どれも濃厚な民族的风情にみちている。最後は濃厚なハンガリー的色彩のうちに華やかに曲を閉じる。

清塚 信也(1982~)

Baby, God Bless You

アルゼンチン生まれのアストル・ピアソラは前衛的なタンゴを次々と発表し「タンゴの革命児」と呼ばれた。本作は1974年完成。タイトルは因習から脱皮した自由なタンゴの意。

A.ピアソラ(1921~92)

リベルタンゴ

G.M.ロドリゲス(1897~1948)

ラ・クンパルシータ

ウルグアイのヘラルド・マトス・ロドリゲスが17歳のときに作曲したこの曲はタンゴの代表曲として世界中で演奏されている。

R.ロジャース(1902~79)

ミュージカル「王様と私」より シャル・ウイ・ダンス?

1951年のミュージカル「王様と私」の主題歌。作曲のリチャード・ロジャースと作詞のオスカー・ハマースタイン2世はこの分野の黄金コンビ。

〔萩谷由喜子〕

A.メンケン(1949~)

「美女と野獣」より 美女と野獣

思いやりに欠けていたジャック王子は老婆に身をやつした魔法使いに宿を貸すのを断ったため、野獣の姿に変えられてしまう、もしも誰かが彼と相愛になれば、もとの姿に戻れるという。やさしい娘ベルは父の身代わりとなって野獣の城に赴き、彼の世話をするうち心を和ませる。そして、狩人の矢に野獣が倒れたとき、彼女の目に大粒の涙が浮かび……。ディズニー・アニメを原作とするミュージカル『美女と野獣』ではアラン・メンケンの音楽が絶大な効果をあげた。清塚信也の自在な編曲で聴きどころをお送りする。

G.ガーシュwin(1898~1937)

ラプソディ・イン・ブルー

売れっ子の流行歌作曲家だったジョージ・ガーシュwinが人気ジャズ・バンドのリーダーからの依頼によって1924年初めにわずか3週間で書きあげたのが独奏ピアノとオーケストラのためのこの曲。ラグタイムのリズムやブルース調の和声など黒人音楽の語法を探り入れた斬新な作風は爆発的反響を呼んだ。

P.I.チャイコフスキイ(1840~93)

バレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71より 花のワルツ

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキイのバレエ「くるみ割り人形」は1892年12月6日に初演された。クリスマスの夜、少女クララは王子に変身したくるみ割り人形の案内でお菓子の国を旅する。これはお菓子の国の女王の侍女たちの踊るワルツ。

M.ラヴェル(1875~1937)

死き王女のためのパヴァーヌ

フランスのモーリス・ラヴェルパリ音楽院の学生だった1899年にスペインの画家ペラスケス作の「若い王女の肖像」からヒントを得て書いた作品。「Pavane pour une infante défunte」(パヴァーヌ・プール・ユヌ・アンファン・デファン)というタイトルはフランス語の韻を踏んだもので、哀悼の曲というわけではない。16世紀スペイン起源とされる舞曲パヴァーヌのスタイルを借りたエレガントなピアノ曲である。

G.M.ロドリゲス(1897~1948)

ラ・クンパルシータ

ウルグアイのヘラルド・マトス・ロドリゲスが17歳のときに作曲したこの曲はタンゴの代表曲として世界中で演奏されている。

A.ピアソラ(1921~92)

リベルタンゴ

G.M.Rodriguez

La Cumparsita

Libertango

R.ロジャース(1902~79)

ミュージカル「王様と私」より シャル・ウイ・ダンス?

アルゼンチン生まれのアストル・ピアソラは前衛的なタンゴを次々と発表し「タンゴの革命児」と呼ばれた。本作は1974年完成。タイトルは因習から脱皮した自由なタンゴの意。

〔萩谷由喜子〕

# オーケストラコンサートⅠ

歌手×映像が織り成す「椿姫」スペシャル・ハイライト!

メインホール 18:30開演(20:30頃終演予定)

G.ロッシーニ 歌劇「セミラーミデ」序曲  
G.Rossini Opera《Semiramide》Overture

歌劇「ウィリアム・テル」序曲  
Opera《Guillaume Tell》Overture

～休憩～

G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)  
G.Verdi Opera《La traviata》(Special highlight Version)

森野 美咲(ソプラノ/ヴィオレッタ)  
高田 正人(テノール/アルフレード)  
甲斐 栄次郎(バリトン/ジェルモン)

下野 竜也(指揮)  
朝岡 聰(ナビゲーター)  
東京交響楽団(管弦楽)

\* 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)制作

田尾下 哲(演出)、新井 鷗子(構成)

RamAir LLC:田村 吾郎(映像)、株式会社アート・ステージライティング・グループ:稲葉 直人(照明)

東京衣裳株式会社:小野寺 佐恵(衣裳)、株式会社丸善:石川 陽子(ヘアメイク)

G.ロッシーニ(1792~1868)

歌劇「セミラーミデ」序曲

1823年2月3日に初演されたジョアッキーノ・ロッシーニのオペラ第34作「セミラーミデ」は古代バビロニアが舞台。女王セミラーミデはアッシャリアの若い武将アルサーチェを夫に迎えて王位を継がせたいが、彼はセミラーミデと先王ニーノとの間の息子であることが判明する。しかも彼女は悪徳神官アッスルと共謀して先王ニーノを謀殺していた。前非を悔いたセミラーミデがアルサーチェと抱擁したとき、アッスルがアルサーチェを襲い、応戦した彼は誤って母を殺害してしまう。序曲冒頭はホルンの4重奏による序奏。主部はオペラ本編の名旋律を繋いだもの。

歌劇「ウィリアム・テル」序曲

ロッシーニ最後のオペラ「ウィリアム・テル」は13世紀スイスの独立運動の英雄を描く。主人公テルが悪代官の命令により、息子の頭上のリンゴを射落とすシーンは有名だ。上演に5時間も要するため現在ではめったに全曲上演されないが、オペラの内容を凝縮した序曲はしばしば単独で演奏される。全体はアンダンテの〈夜明け〉、アレグロの〈嵐〉、アンダンテの〈牧歌〉、アレグロ・ヴィヴァーチェの〈スイス独立軍の行進〉の4部分からなる。

G.ヴェルディ(1813~1901)

歌劇「椿姫」

フランスのデュマ・フィスの小説を原作とするジュゼッペ・ヴェルディのオペラ第18作「椿姫」は1853年3月6日にヴェネツィアで初演されたが、ヒロインが高級娼婦という設定に観客が戸惑い、歌手にも人を得ず不評だった。だが歌手を刷新して再演したところ今度は好評を博し、今日の隆盛の土台を築く。実は「椿姫」とはデュマ・フィスの原作のタイトルで、ヴェルディはこれを「ラ・トラヴィアータ(道を踏み外した女)」とした。その理由は、原作では眞実の恋に目覚めたヒロインの葛藤がテーマとなっているのに対し、オペラでは社会から虜められた存在としてのヒロインに温かな目を向け、社会的弱者に犠牲を強いる市民社会のエゴイズムをあぶりだすことを主眼としたためだろう。

長大な序曲ではなく、第1幕と第3幕に亘る関連性のある簡潔な前奏曲が書かれている。

第1幕はヴィオレッタの家の夜会。友人に案内されて地方出身の青年アルフレードがやってくる。歌を所望された彼は最初辞退するがやがてグラスをとって「乾杯の歌」を歌い始め、ヴィオレッタが加わって二重唱となる。アルフレードは愛を讃え、ヴィオレッタは快楽を讃えている。客たちが別室に移ったとき、ヴィオレッタは椅子に倒れこみ、アルフレードから不摂生を戒められ、愛を告白される。客たちが帰り、一人になったヴィオレッタは恋に目覚めかけた自分を「不思議だわ È strano!」といぶかしみ、「あの方こそ待ち望んだ恋の相手かしら」と「ああ、そはかの人か」を歌うが、「ばかばかしい!」と自らの恋心を打消して快楽を謳歌する「花から花へ」に移る。

第2幕は二人の郊外の家。アルフレードは今の幸せな生活に感謝して「燃える心を」を歌うが、ヴィオレッタが生活費のため財産を手放していることを知り、金策しようとパリへ向かう。彼の父ジエルモンがヴィオレッタを訪ねて来て、彼の妹の縁談のために身を退いて欲しいと「天使のような娘」を歌い、ヴィオレッタは「お嬢様にお伝えください」を歌って別れを受け容れる。帰宅したアルフレードは父の言に耳を貸さない。ジエルモンは故郷の美しさを讃える「プロヴァンスの陸と海」を歌い息子を諫める。しかしアルフレードはパリへ行き、ある夜会でヴィオレッタを激しく侮辱してしまう。

第3幕は数ヵ月後のパリのヴィオレッタの家。今や瀕死の床に就く彼女はアルフレードがここに向かっているというジエルモンの手紙を何度も読み返し「過ぎし日よ、さようなら」を歌う。ついにアルフレードが駆けつけてこれまでのことを詫び、「パリを離れて」の二重唱となる。ジエルモンも到着。ヴィオレッタの魂は天に昇る。

[萩谷 由喜子]